

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572308567		
法人名	株式会社 日本ケアシステム		
事業所名	グループホームしらさぎ苑		
所在地	秋田県潟上市飯田川飯塚字塞ノ神143-3		
自己評価作成日	令和5年1月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和5年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>新型コロナウイルスの影響が大きいですが、可能な限り地域活動へ参加していること。面会制限が続く中、可能な限り面会の希望を実現させていること。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>長期に渡ってコロナの影響が続いていますが、情報提供や面会の際の配慮がなされ、家族のホームへの信頼が得られています。家庭的な雰囲気づくりを目指しており、経験の長い職員の対応が利用者にとってここでの暮らしに安心感をもたらし、利用者の心身機能は低下してきているものの日中は自然にホールに集まり、それぞれのペースで過ごすことができるよう環境を整えながら支援しています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20) <input type="radio"/>	47	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14) <input type="radio"/>	48	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19) <input type="radio"/>	49	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30) <input type="radio"/>	50	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41) <input type="radio"/>	51	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25) <input type="radio"/>	52	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている <input type="radio"/>	53	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
		54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15) <input type="radio"/>
		55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16) <input type="radio"/>
		56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
		57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10) <input type="radio"/>
		58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
		59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールや事務室など、職員全員の目が留まる場所に基本理念を掲示している。	多くの利用者に心身機能の低下がみられるものの、家庭的な雰囲気の中で生活環境を整えながら安心して暮らし続けることができるよう支援することで理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で地域とのつながりは減少している。	職員の町内活動への参加は続けており、町内の人たちが敷地の雪寄せに協力してくれたり、利用者の散歩の際には近所の方と挨拶を交わしています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	新型コロナウイルスの影響で地域貢献できる場が減少している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度の運営推進会議は全て中止。紙面での報告のみとしている。	報告は家族に対してのみ行われ、行政及び地域の方々等、他のメンバーには行っていないことから意見を出していただくことはありません。	書面上の会議であっても会議メンバーの意見をいただける工夫をし、運営に活かす取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類等の受け渡しの際は、可能な限り直接窓口へ提出し、顔の見える関係づくりに努めている。	包括支援センターのオンライン研修に参加している他、市役所の窓口へ直接出向き、相談事項に対応していただく等、密な連携を図っています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のカンファレンスに合わせて身体拘束適正化委員会及び虐待防止委員会を実施。 また、関連事業所との同委員会も開催している。	法人全体で取り組んでおり、職員も言葉遣いに気をつけながら身体拘束、虐待のないことを基本に支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各制度及び事業に関する事業所内研修を実施しているほか、必要時は市町村社協に相談の上、対応にあたっている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時やその前段階から口頭・文書での説明をしている。特に料金面に関しては必要に合わせて見積書を提示している。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	直接の面会が出来ない状況にあるが、電話等を通じて家族等が意見を言いやすい環境を作っている。	運営に関する要望はないようですが、家族も高齢になってきていることを踏まえ、相談事に対応する等してできる限り話す機会をつくるようにしています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	通常業務中から各職員が意見を言いやすい関係づくりに努めている。コロナ禍に際して、極力職員の負担が少ない職場環境作りに努めている。	管理者も現場に入って業務を担い、職員の意見要望の根拠を把握しやすい立場にあります。意見が言いやすい環境がつけられており、反映できるよう努めています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は職員一人ひとりの状況を正確に把握しており、それぞれに合わせた対応をしてくれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症を持つ方に対しては、本人の発する言葉だけにとらわれず前サービス利用時の様子を職員等から聞き取ることで、信頼関係構築の第一歩としている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特にサービス導入初期はこまめな連絡を行い、関係づくりに努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年中行事などは入居者からの意見を参考にすることが多い。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所にはできない、家族にしかできないことを見つけ伝えるようにしている。また、入居者の良い場面だけでなく困難な状況も隠すことなく伝えるよう努めている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	家族からの手紙に返信を促したりすることで、関係が途切れないようにしている。	親しい人とこれまでのような接し方はできませんが、報告書に写真を添付したり、面会に配慮したり、受診時に遠回りして自宅に寄ってホームに戻る等、制限のある中で可能な限り関係継続の支援に努めています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はなるべく共用スペースで過ごしていただくことで、利用者通しの関係ができるように心掛けている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も退居先での生活が落ち着くまでこまめに連絡するように努めている。また、退居先事業所職員との連携にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	本人が声にして出す希望だけではなく、隠された思いも把握できるよう、職員間で情報共有に努めている。	日々の生活の中で利用者が話したことや職員が気づいたことを共有し、暮らしに反映できるようにしています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活歴について家族から聞き取りを行っている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	課題についてはなるべく家族と話し合うことで職員だけの問題にならないように努めている。	毎月カンファレンスを行っている他、随時ミニカンファレンスを行って状況を確認し、介護計画を作成しています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	個々に記録を残すとともに、日々の変化を職員間で情報共有できるよう、職員同士話ができる時間を設けている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内化を中心に地域資源の把握に努めている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人の希望するところ、以前から利用しているところを継続して利用してもらっている。状況に合わせてかかりつけ以外の医療機関も積極的に利用し、本人及び家族の希望に添えるようにしている。	希望に沿って対応しており、家族の協力も得ながら適切に支援しています。処方薬の配達に対応していただき、薬局との協力関係も築かれています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約先の医療機関、訪問看護を中心に様々な相談をさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にも可能な限り面会するようにし、その際に関係者との情報交換・相談を行っている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から終末期の在り方についてご家族と話し合いを行っている。また、状態変化があれば都度話し合いを行っている。	終末期の対応をしないことを説明し、家族の同意を得ています。状態の変化により、法人内の他施設に生活の場を移すことができるように支援しています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の状態把握に努め、今後予想される変化を常に考えながら行動している。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施。 災害が予想される場合には事前の準備を行っている。	避難訓練は日中、夜間を想定して行っています。現在はホームの職員のみで行っており、夜間の火災時の安全な避難に課題が残っています。	夜間の火災時の避難が安全に行えるよう、地域への協力の働きかけを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	建物の構造上、入居者のプライバシーは守られやすくなっているが、事故や急変あるいは孤立に繋がらないよう声掛け等を行っている。	職員はその人の状態をよく知り、気配りできる対応の仕方を心得ています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者自身が買い物に行けない状況が続いているが、一人ひとりの好みを把握し好みの衣類を着ることが出来るよう、買い物代行を行っている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が食事(調理)に参加できるよう、ホットプレートを活用した焼肉やメニューを選べるラーメンなどを実施し、好評をいただいている。	利用者に当日のメニュー表を作成していただくのは続いています。外食気分が味わえる雰囲気づくりをする等、利用者ができることが少なくなった中でも楽しい食事場面が提供できるよう工夫しています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事作りに努めるとともに、定時で水分摂取できるようスケジュール作りしている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを行うよう声掛けするとともに必要に合わせて介助している。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。また、オムツ類を使用する際にも汚れっぱなしにならないようにしている。	排泄用品を使用する方が増えてきていますが、チェック表を活用し、その人毎の状態把握に役立てています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫を行うとともに、主治医へ相談の上、必要に合わせて下剤の使用もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には入浴日を定めているが、本人の気分が乗らないなどがあれば随時曜日を変更している。	浴槽が広く、安全な入浴が確保できないことから、現在は浴槽には入らず、足浴をしながらシャワー浴で対応し、清潔を保っています。	工夫をすることで浴槽に入れる取り組みを期待します。
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転に注意しつつも、日中でも気持ちよく休めるよう配慮している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳を活用し内服薬の理解に努めている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者それぞれがやりたいことをできるよう、環境設定を中心に支援している。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出はかなり減少してしまったが、天候に合わせて近所の散歩等を行っている。	外出にも制約があり、通院がその機会となっている他、ホーム周辺の散歩をすることで外気浴が行われています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭のお預かりは行っていない。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ごく普通の家庭を目指しつつ、不快感のない程度に整理整頓を行っている。	一般家庭のような雰囲気づくりに配慮しており、利用者のその時々状態に合わせて過ごせる空間となるよう工夫しています。浴室は広さがありますが、床暖房が施され、寒さを感じずに使用できます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの席と決めている場所と決めていない場所を設けている。また、入居者同士の状況に合わせてレイアウトの変更も行っている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には極力自宅にあるものを持ってきていただくよう声掛けしている。	各居室に洗面台と収納スペースがあり、その人の状態に合わせてベッドを配置しています。好みに合わせて壁を飾り、必要なものを身近に置いて生活の場としています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境を整えたうえで不足している部分は介護のマンパワーで補い、安全かつ自立した生活が遅れるよう努めている。		